

## 第5章 取組施策

本計画では、2007年3月に策定した「尼崎市地球温暖化対策地域推進計画」の考えを引き継ぎながら、目標の達成に向けて、さらに幅広く地球温暖化対策の取組を推進し、市域から排出される温室効果ガスの削減を図っていきます。

### 1 取組方針

本市は、住居や商業、公共施設等の都市機能が集積すると同時に、高い技術力を持った企業が数多く立地する産業都市です。また、公共交通の利便性も非常に高いうえ、平坦な地形は徒歩や自転車での移動にも適しています。これらの地域特性を活かしながら、「コンパクトで持続可能な低炭素都市・あまがさき」の実現を目指して、次の3つの方針で温暖化対策を進めていきます。

#### (1) 一人ひとりの意識を変えていきます

温室効果ガスは、暮らしやビジネスの様々な場面から排出されており、各個人や企業の取組が不可欠です。しかし、温暖化対策の関連分野は多岐にわたり、内容も複雑であるため、十分な情報が得られず、取組が浸透していない状況にあります。

このため、温暖化対策についての情報提供や支援を行うことで、市民や事業者の意識を変えていきます。

#### (2) 環境と経済の両立を目指します

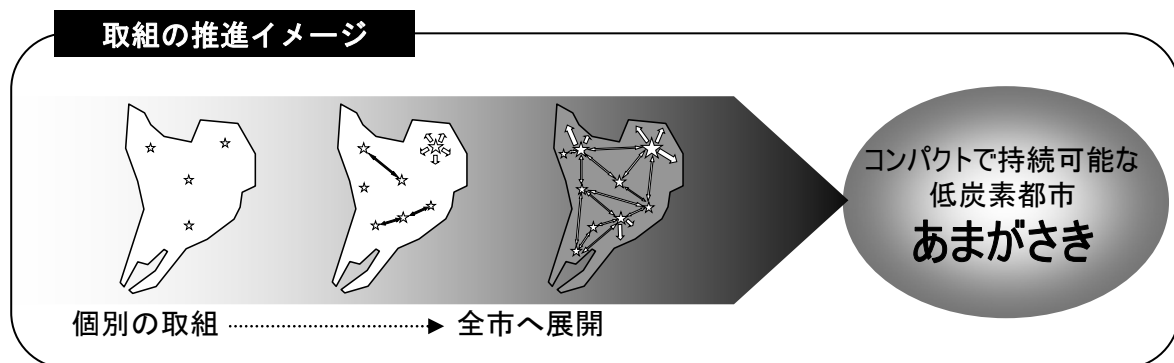
生活の豊かさを実感できる「低炭素社会」を実現するためには、温室効果ガスの削減と経済活動を両立させることが必要であり、そのためには、環境を重視した企業経営とそれを推進する仕組みの構築が重要です。

本市では、ものづくりのまち・あまがさきの特性を活かし、地球温暖化対策に貢献する製品の開発や製造・販売、及び率先した購入を促すなど、環境にやさしい暮らしと産業の両立を目指すことで温室効果ガスの削減に貢献します。

#### (3) 取組の輪を各主体との連携・協働により広げていきます

地球温暖化対策の推進に当たっては、市民・事業者・学校・行政などすべての主体が個々に取組を進めることに加え、各主体が情報の共有化を図りながら、それぞれの役割分担のもと連携・協働して取組を進めていくことが重要です。

本市では、各主体間の情報交換や具体的な取組を推進するためのネットワークを構築することにより、各主体の垣根を越えた地球温暖化対策を進めていきます。

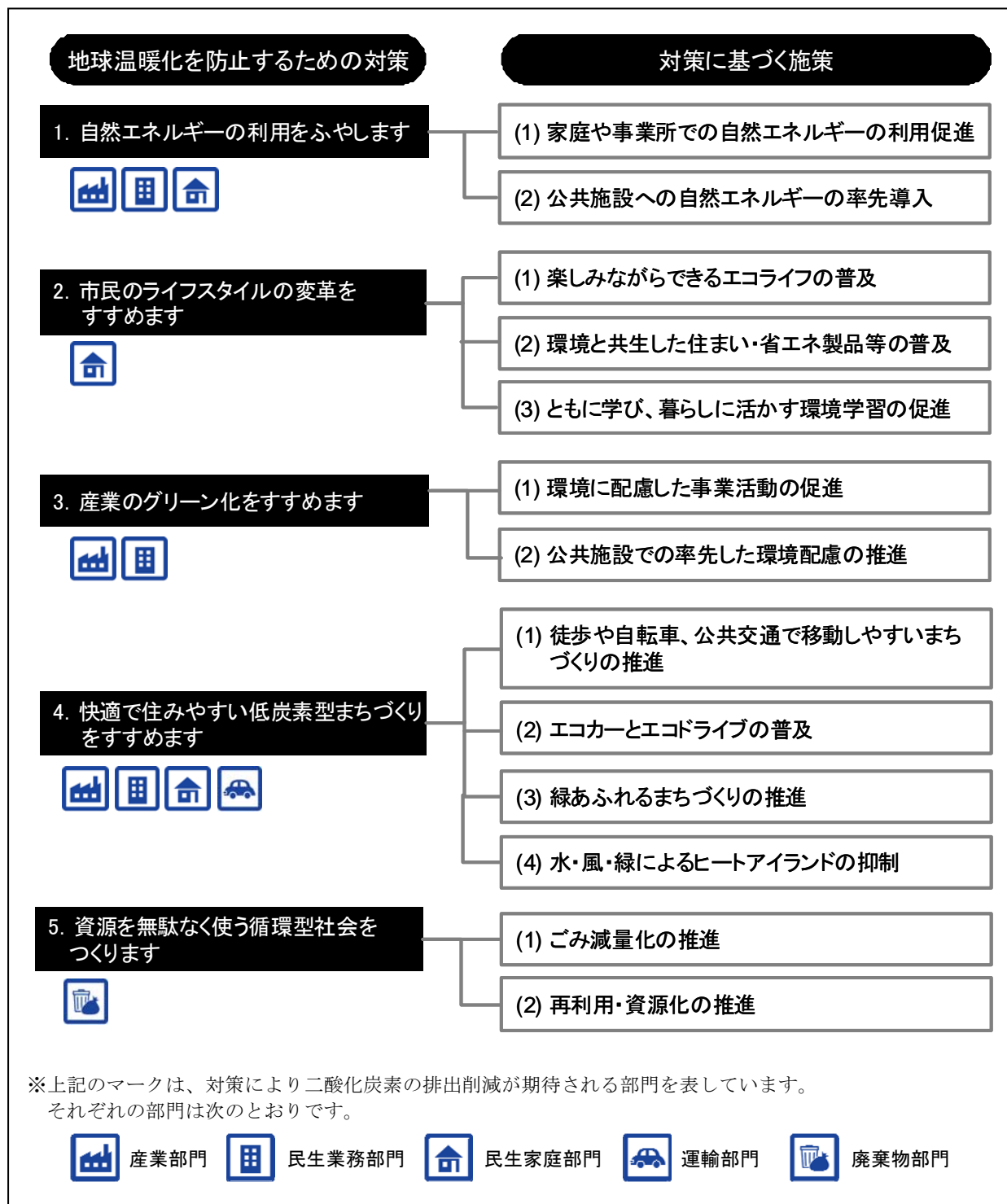


## 2 施策体系

温室効果ガス削減目標を達成するためには、家庭や事業所など、従来それぞれの部門ごとに実施してきた取組にとどまらず、自然エネルギー対策やまちづくり対策など、部門を越えて、総合的に低炭素都市の実現に向けた取組を進めていく必要があります。

そこで、本市から排出される温室効果ガスの各部門の特性やこれまで実施してきた計画の取組を踏まえた上で、次の5つの体系に分類し温暖化対策を進めていきます。

図表 47 施策体系



### 3 取組内容

#### 3.1 自然エネルギーの利用をふやします

温室効果ガス排出量を削減するためには、エネルギー消費を抑制することに加えて、発電を行う過程で二酸化炭素を排出しない自然エネルギー（太陽光や太陽熱、風力、大気熱等）の利用割合を大幅に高めていくことが不可欠です。

次のような施策を実施することにより、自然エネルギーの利用を促進していきます。

##### (1) 家庭や事業所での自然エネルギーの利用促進

自然エネルギーを活用するための設備の設置には多額の初期投資が生じることから、国等の補助制度の周知や、太陽光発電相談指導センター（兵庫県）などとの連携による情報提供により、市民・事業者へ自然エネルギーの普及啓発を行います。また、市民が広く利用する施設等に対し設備設置時の負担を軽減する支援を行います。

また、グリーン電力証書等、電力の利用者が自らの選択で自然エネルギーによる電力を購入することができる仕組みの活用など、市民や事業者が、自然エネルギーを選択できる仕組みを検討します。

##### 【主な取組実績】

###### ◇住宅用太陽光発電設置費補助制度（2007～2009年度）

（補助内容）5万円/kw、上限：戸建20万円、区分所有50万円

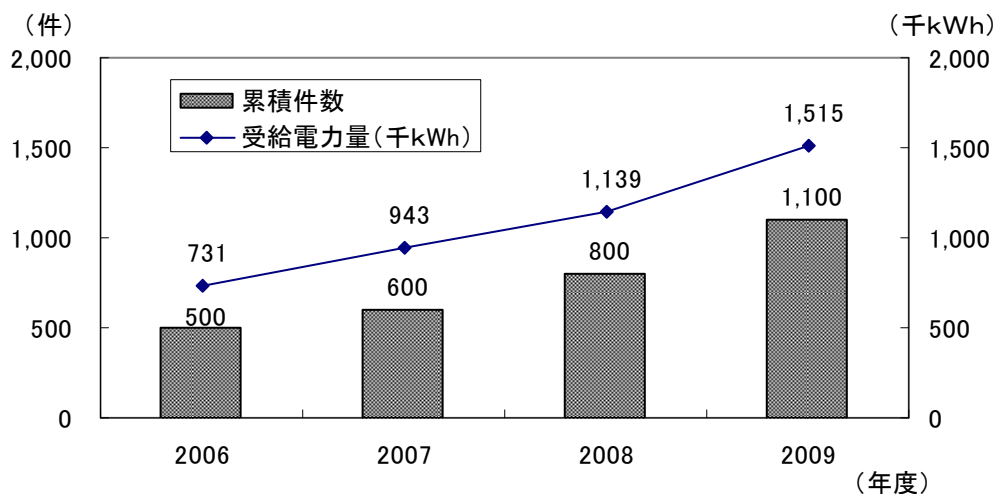
（補助実績）2007年度：65件、2008年度：125件、2009年度：244件

###### ◇国、県等の補助制度を市ホームページ等で広報（2009年度～）

##### 【関連データ】

##### 尼崎市での太陽光発電の導入実績

本市での、電力会社に余剰電力を供給している太陽光発電設備の件数と受給電力量は増加しています。



（注）件数は各年度末（3月末時点）、受給電力量（kWh）は各年度の値

（出典）関西電力株式会社

## スマートグリッド実証実験

太陽光発電や風力発電などの自然エネルギーは、発電量が天候や気候に左右されるため不安定です。更に、電力需要が少ないときに供給量が増加すると、配電線に大量の電力が送られ、負荷をかけることになります。そのため、電力の安定供給と自然エネルギーの導入拡大を進めていくためには、需要と供給のバランスを調整する等、システムの安定化が不可欠です。

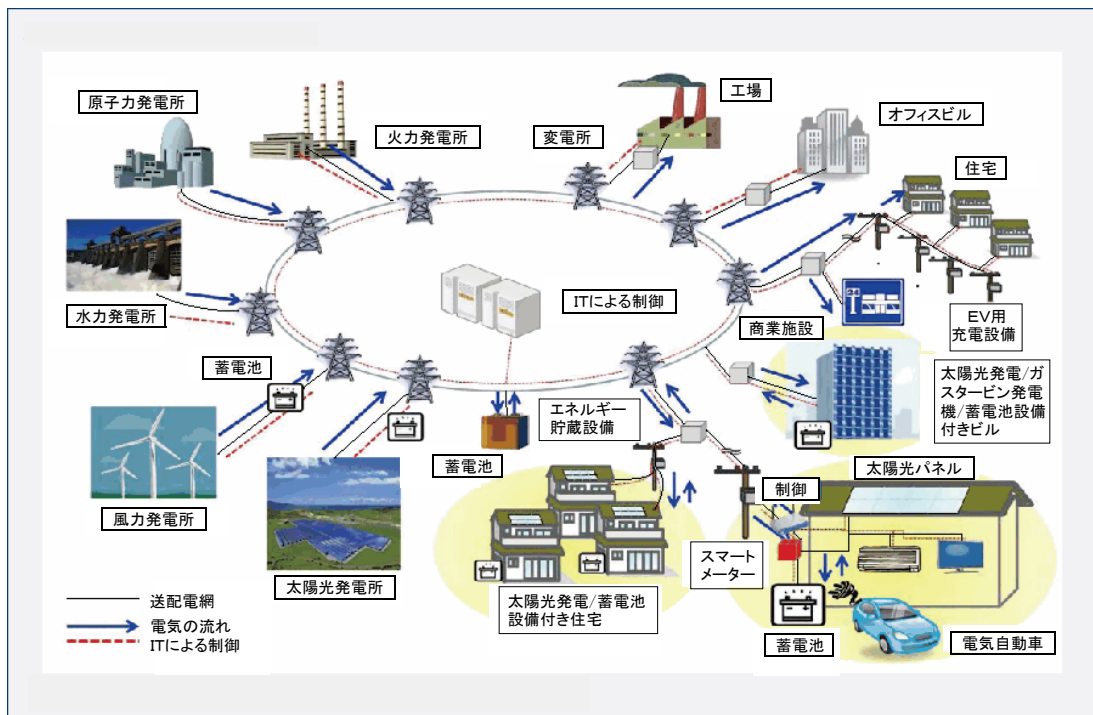
スマートグリッドとは、電力の流れを供給側・需要側の両方から制御し、最適化できる次世代電力ネットワークです。現在、導入に向けた実証実験が各地で行われており、本市においても、三菱電機株式会社（尼崎地区）が、電力需給制御、配電制御、自動検針等のシステムを自社内に構築し、電力流通システム全体の検証を行う実証実験を2010年度から行っています。

### 【実証実験での導入設備】

メガソーラーシステム4 MW、系統用蓄電池500 kW、系統シミュレーター、系統安定化機器、次世代電子メーター150ヶ所、EV充電ステーション等

（出典）三菱電機株式会社

スマートグリッド概念図



（出典）「平成22年版環境白書」

## (2) 公共施設への自然エネルギーの率先導入

市民や事業者に対し自然エネルギーの導入を促すため、身近な公共施設や学校施設等において太陽光発電や太陽熱利用、地熱利用などの設備を率先して導入します。

また、公共施設に設置したこれらの設備を環境学習の教材として用いることで、児童生徒や施設利用者への普及啓発を行います。

### 【主な取組実績】

#### ○太陽光発電設備

導入施設	出力規模	導入施設	出力規模
尼崎高等学校	10kW	尼崎双星高等学校	5.5kW
東部浄化センター	3kW	難波小学校	10kW
久々知住宅1号棟	9kW	尼崎北小学校	3kW
成良中学校	10kW	武庫南小学校	0.3kW
杭瀬小学校	10kW	蓬川住宅	0.56kW
開明庁舎	3kW	バス停留所（25基）	計0.49kW
大庄中学校	10kW	クリーンセンター第2工場	0.17kW
女性・勤労婦人センター	3kW		

#### ○太陽熱給湯器

導入施設
尼崎高等学校第2体育館
中央体育館

#### ○地熱利用換気設備

導入施設
成良中学校

### 尼崎市での導入事例



杭瀬小学校屋上



太陽光パネルを使った学習風景



成良中学校校舎庇



バス停留所



クリーンセンター

### 3.2 市民のライフスタイルの変革をすすめます

家庭では、一人ひとりが日々の生活の中で、自然と環境に配慮した行動を選択していくことが必要であり、そのような市民一人ひとりの行動が、環境に配慮した社会への変革につながります。

そのためには、正確な情報がわかりやすく提供されるとともに、市民が楽しみながら環境配慮行動に取り組める制度や仕組みづくりが必要です。

次のような施策を実施することにより、市民のライフスタイルの変革をすすめます。

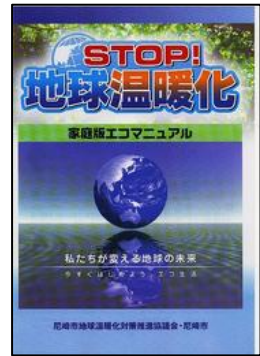
#### (1) 楽しみながらできるエコライフの普及

エコライフ（環境に配慮したライフスタイル）の普及を進めていくため、啓発パンフレットの配布や講座・イベントの実施などにより、地球温暖化問題とその対策についての正確な情報をわかりやすく市民に提供します。

また、市民自らが自発的にエコライフを実践できるよう環境家計簿などを活用し、二酸化炭素排出量の見える化（可視化）を促進します。

#### 【主な取組実績】

- ◇地球温暖化対策フォーラムの開催（2008年度～）  
（参加実績）2008年度：250人、2009年度：300人、2010年度：150人
- ◇家庭版エコマニュアル「STOP!地球温暖化」の配布（2008年度～）  
（作成部数）2万部（イベント等で配布）
- ◇地球温暖化問題等に関する地域説明会の開催（2008年度）  
（開催実績）12回開催、参加者数 380人
- ◇「うちエココンテスト」の実施（2009年度～）  
市民の温暖化対策の取組を表彰  
（応募実績）2009年度：65件、2010年度：48件
- ◇「うちエコ診断」の実施（2009年度～）  
専門家が各家庭を訪問し、家庭の状況に応じた有効な対策を提案  
（参加実績）2009年度：37世帯

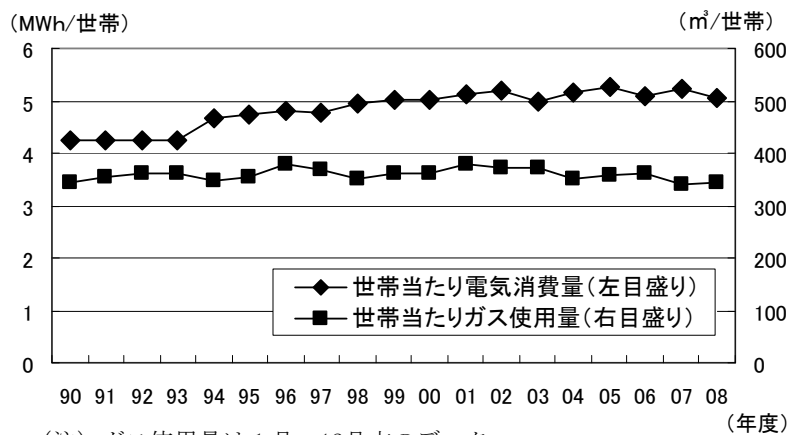


家庭版エコマニュアル

#### 【関連データ】

##### 電気及びガスの利用量の推移（世帯当たり）

世帯当たりの利用量は、ガスは横ばい傾向、電気はやや増加傾向にあります。



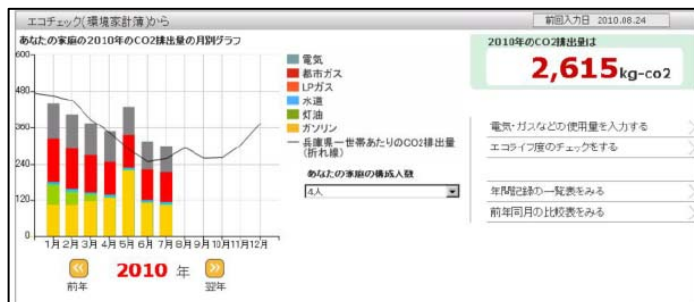
(注) ガス使用量は1月～12月末のデータ

(出典) 「尼崎市統計書」

環境家計簿

環境家計簿とは、毎日の生活の中で環境に関係する出来事や行動を家計簿のように記録し、家庭でどのような環境負荷が発生しているかを家計の収支計算のように行うものです。家庭で使用している電気・ガス・水道・ガソリン等の使用量をチェックすることで、家庭からのCO<sub>2</sub>排出量を知ることができます。

兵庫県地球温暖化防止活動推進センターでは、WEB画面で家庭のCO<sub>2</sub>排出量をチェックする「エコチェック」や、家庭のどこからどれだけCO<sub>2</sub>がでているかを確認できる「うちエコ診断」を提供しています。



エコチェック (画面)



うちエコ診断 (画面)

(資料提供) 兵庫県

省エネナビ・エコワット

省エネナビは、電気やガスといったエネルギーの使用量や金額をリアルタイムに表示するシステムです。エコワットは、コンセントに差し込み、電気製品の電源プラグをつなくことで、その電気製品の電気使用量をリアルタイムに表示する機器です。

これらにより“見えないエネルギー”をわかりやすく見える化(可視化)し、省エネルギーの実践行動を促すことが期待できます。

省エネナビ



エコワット



(出典) 財団法人省エネルギーセンター  
株式会社エネゲート

## (2) 環境と共生した住まい・省エネ製品等の普及

通風・採光など環境に配慮した良質な住宅ストックを形成することや、既存住宅の省エネ改修を進めていくためには、建物自体のライフサイクルを見据えた環境配慮が必要です。そのため、市民・事業者との協働により、住宅に関わる制度・仕組みについての情報提供を進めます。

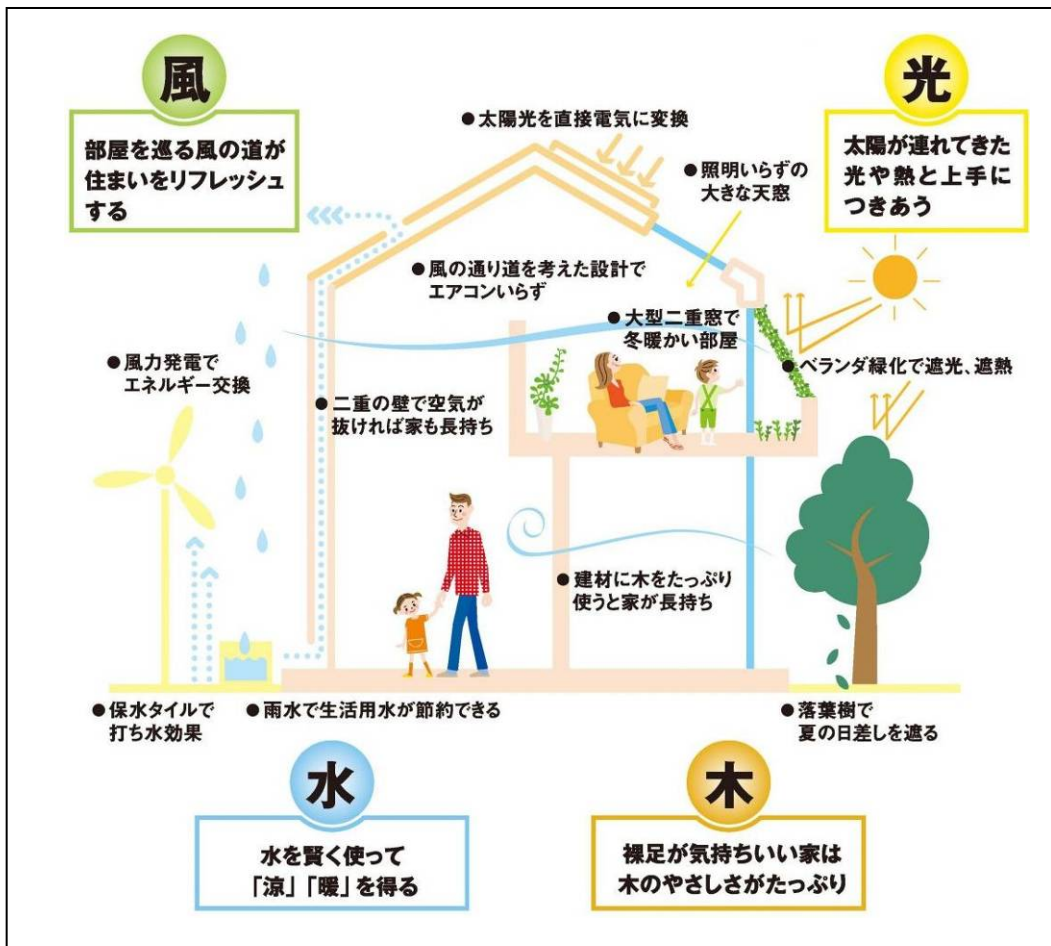
また、空調、照明、給湯器等の住宅機器や家電製品等について、高いエネルギー性能を有する製品の普及を促進します。

### 環境コラム

#### エコハウス（環境に配慮した住宅）

エコハウスとは、地域の気候風土や敷地の条件、住まい方に応じて自然エネルギーが最大限に活かされることと、さらに身近に手に入る地域の材料を使うなど、環境に負担をかけない住宅です。

通風・採光を工夫したり、建物の高断熱化などを進めることにより環境負荷の小さい住まいづくりが求められています。



(出典) 環境省「地球温暖化パネル」



### (3) とともに学び、暮らしに活かす環境学習の促進

地球温暖化問題やその対策等について学び、自ら行動できる人材を育成していくため、学校や地域との連携により環境学習プログラムの整備を進めます。

環境学習に取り組む市民や市民団体、企業を支援するなど、市民・市民団体・学校・事業者・行政が協働で環境学習に取り組んでいきます。

また、森林再生や人材育成に向け、都市と市外の山間部との連携を目指す交流事業を検討します。

#### 【主な取組実績】

##### ◇尼崎市ルーム・エコクラブ

市民や小中学生等の環境学習のための施設

##### ◇環境学習会への講師の派遣

(派遣実績) 2007年度：7回、2008年度：10回、  
2009年度：4回

##### ◇環境学習教材等の貸出

(貸出実績)

自然観察に必要な器具等

2007年度：77人、2008年度：57人、2009年度：40人

環境図書等

2007年度：325冊、2008年度：459冊、2009年度：197冊

##### ◇児童・生徒向け環境学習プログラム冊子の作成・配布(2009年度～)

企業や団体が実施している環境学習事業を冊子にまとめ、小・中学校に配布

##### ◇環境保全パートナーシップ事業(2006年度～)

市民が環境学習をする際、会場費や講師謝礼等を一部補助

(支援実績) 2007年度：10事業、2008年度：7事業、2009年度：4事業

##### ◇あまがさきの身近な自然写真展の開催及びカレンダーの作成(1989年度～)

市内の自然写真を募集しカレンダーを作成、市民等へ配布

##### ◇「あまがさき環境塾」(1992年度～)

グループ討議や実践活動を中心とした連続セミナーを開催

(参加実績) 2007年度：48人、2008年度：34人、2009年度：34人(修了生 延べ460人)

##### ◇あまがさき環境オープンカレッジの設立(2010年度～)

市民・学校・企業・行政の協働による環境の学びの場(講座やイベント等を開催)

##### ◇公民館での地球温暖化対策等の環境学習講座の展開(2008年度～)

(開催実績) 2008年度：6回、2009年度：1回

##### ◇エコイベントマニュアルの作成・配布(2009年度～)

尼崎で行われるイベントでの環境配慮を促すためのマニュアル



ルーム・エコクラブ

## あまがさき環境オープンカレッジ

あまがさき環境オープンカレッジは、“環境と共生するまち・あまがさき”を育てる人づくりを目的に、市民・学校・企業・行政が協働し、身近な自然、地球環境問題、暮らし、まちづくりなど、環境に関連した幅広い分野の学習・体験メニューをそろえた環境の学び場として、2010年度に開講しました。実行委員会が企画・運営する「主催講座」、個人・団体等からの企画・提案を受け、実行委員会が年間カリキュラムを勘案し、選定する「共催講座」、個人・団体等が企画・運営し広報面で協力する「連携講座」を、「まちじゅうキャンパス」として公園、公共施設、工場など様々な場所で実施します。特に主催・共催講座については、参加回数に応じた景品がもらえる「あまエコろく」制度があり、「あまがさき通信」において、講座情報を発信しています。また、2003年度から環境基本計画の推進のために設立された「あまがさき市民環境会議」の取組を引き継ぎ、実施するほか、「市民が創るあまがさき環境白書（仮称）」の作成等の事業ごとに公募委員を実行委員に加えるなど、常に新しいことにチャレンジし続けています。



開校記念交流会の様子



あまエコろく



あまがさき通信

## 家庭での取組メニュー

家庭<sup>※1</sup>からの二酸化炭素排出量の削減目標（25%以上削減）の達成に向けて、市民一人ひとりが具体的な取組を進めていけるよう、様々な取組を紹介します。

※1 民生家庭部門に運輸部門の自家用車分を足したもの

### 尼崎市民の二酸化炭素排出量と削減目標量

尼崎市では、一人あたり年間約1,600kg、世帯あたりでは年間約3,600kg<sup>※2</sup>の二酸化炭素を排出しています。家庭の削減目標（25%以上削減）を達成するためには、以下の削減を目指す必要があります。

**【二酸化炭素排出量の削減目標量】 一人当たり 400kg削減 世帯当たり 900kg削減**

※2 尼崎市の1世帯当たり平均人員2.27人を用いて算出

### 家庭からの二酸化炭素排出量の内訳

家庭からの二酸化炭素排出量の内訳は、④照明・家電製品からが最も多く、⑤自動車、①冷・暖房、②給湯と続きます。

家庭からの二酸化炭素排出量を減らしていくためには、次の2つの削減対策を組み合わせることで実行していくことが有効です。

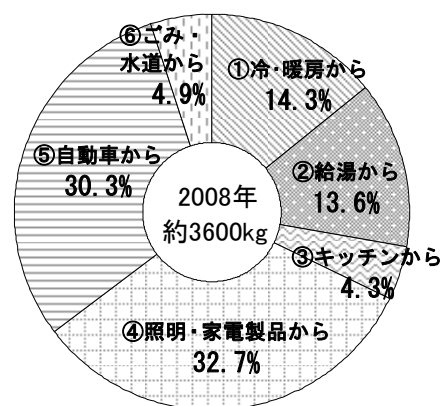
#### 【削減対策1】(下表)

日常生活における  
省エネ行動の実践



#### 【削減対策2】(次ページの図)

省エネ・省CO<sub>2</sub>型の機器の  
選択(購入・買い替え)



(注) 内訳は全国データ、排出量は尼崎市データ  
(出典) 全国地球温暖化防止活動推進センター

### 【削減対策1】 日常生活における省エネ行動の実践

家庭での省エネ・省CO<sub>2</sub>活動のうち、効果の大きいものを、生活場面ごと(①～⑥)に一覧にしました。お金の節約にもなりますし、少しずつでも実践しましょう。

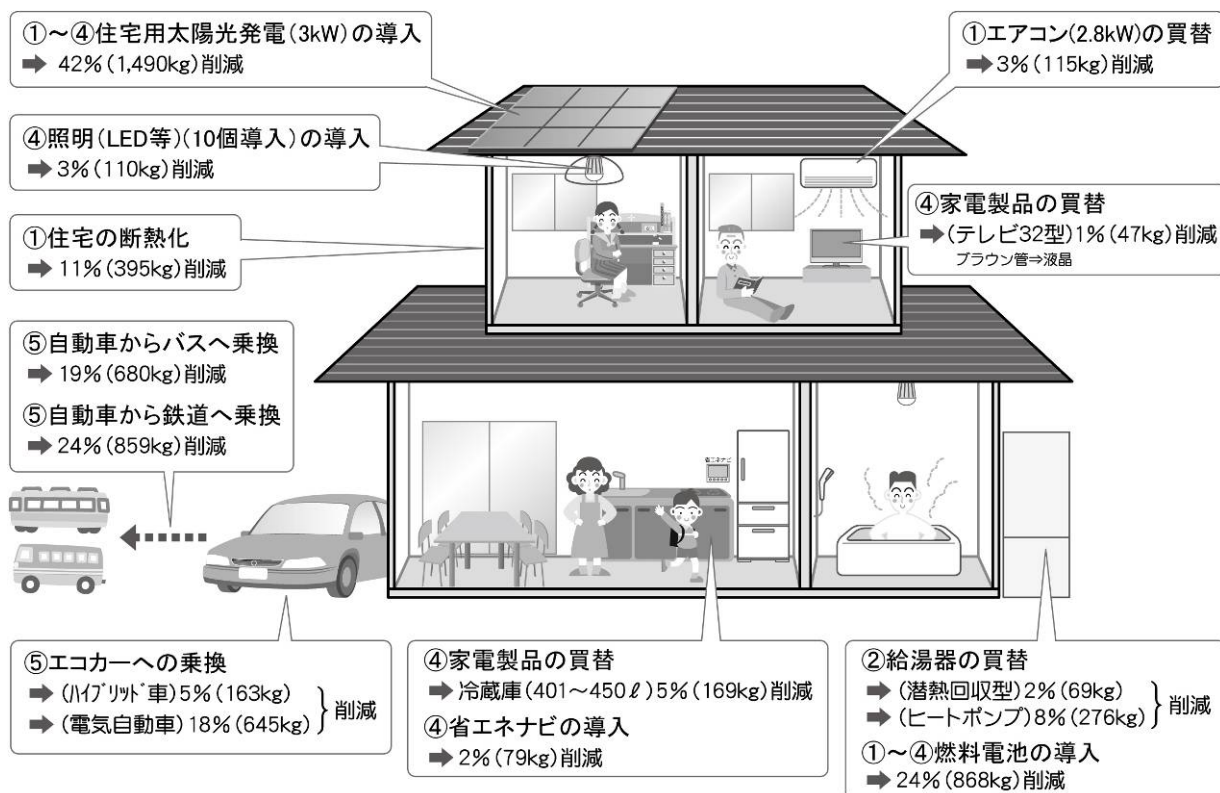
区分	メニュー	世帯当たり削減割合(%)	二酸化炭素削減量(kg-CO <sub>2</sub> /年)	世帯当たり節約額(円/年)
①冷・暖房	エアコン(冷房)の設定温度を27℃から28℃に上げる	0.3	12.4	670
	エアコン(暖房)の設定温度を21℃から20℃に下げる	0.6	21.8	1,170
	電気カーペットの設定温度を強から中にする	2.1	76.2	4,090
	電気こたつの設定温度を強から中にする	0.6	20.1	1,080
	ガスファンヒーターの設定温度を21℃から20℃に下げる	0.5	19.0	1,220
②給湯	給湯器の設定温度を40℃から38℃に下げる	0.6	20.5	1,320
	シャワーを1分間短縮する	0.8	29.8	1,920
③キッチン	冷蔵庫の設定温度を季節に応じて強から中にする	0.7	25.3	1,360
	電気ポットを長時間使用しないときはプラグを抜く	1.2	44.1	2,360
④照明等	温水洗浄便座を使わないときはふたを閉める	0.4	14.3	770
⑤自動車 <sup>※3</sup>	ふんわりアクセルでゆっくりスタート	5.4	194.0	11,370
	加減速の少ない運転をする	1.9	68.0	3,980
	早めのアクセルオフ	1.2	42.0	2,460
	アイドリングストップ	1.1	40.2	2,360
	タイヤの空気圧を適正に	0.9	34.1	2,000
⑥ごみ等	買い物袋(マイバッグ)を利用する	0.6	22.6	-

※3 平均燃費11.6km/ℓ、2,000cc普通乗用車を年間1万km走行した場合

(出典) 財団法人省エネルギーセンター「家庭の省エネ大事典」

## [削減対策2] 省エネ・省CO<sub>2</sub>型の機器の選択（購入・買い替え）

買い替えの際には、効率の高い省エネタイプの機器・設備を選択しましょう。また、必要以上に大型化しないよう心がけてください。



※1 吹き出し内の①~⑥は、前ページの円グラフの①~⑥に対応しています。数値は世帯当たりの削減割合です。世帯あたり人員は、尼崎市平均の2.27人（二酸化炭素排出量：約3600kg）を想定しています。

※2 ここで示す削減効果は、買い替え前と同規模の製品・設備に更新した場合の1年間の削減値です。

※3 家電製品については10年前のものを最新のものに買い替えた場合を想定しています。

※4 自動車からの乗り換え（バス、鉄道、エコカー）については、年間約5,000km分の走行量乗り換えた場合を想定しています。

※5 上記に示す削減効果はモデルケースであり、機器等の性能や使用状況等の諸条件によって効果が異なります。

## 家庭における25%削減の達成パターン例

例えば、以下の8つの取組に全て取り組めば、合計27%の削減になります。

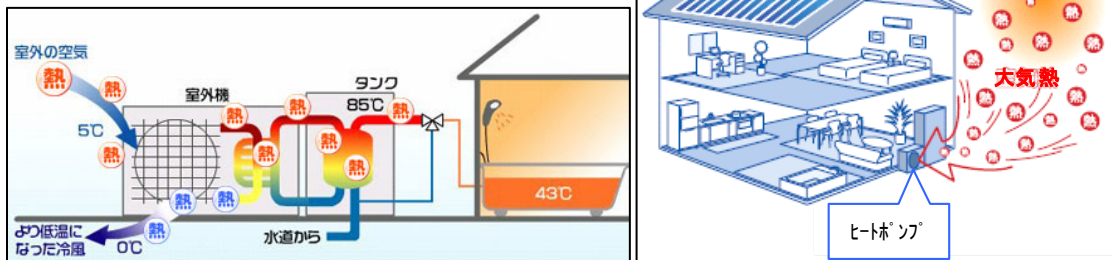
区分		メニュー	世帯当たり削減割合(%)	二酸化炭素削減量 (kg-CO <sub>2</sub> /年)
[対策1] 省エネ行動	①冷暖房	冷房(2台)の設定温度を27℃から28℃に上げる	1%	25 kg 削減
	①冷暖房	暖房(2台)の設定温度を21℃から20℃に下げる	1%	43 kg 削減
	⑤車	ふんわりアクセルでゆっくりスタート	5%	194 kg 削減
[対策2] 省エネ機器の購入・買い替え	①冷暖房	エアコン(2.8kW)の買い替え	3%	115 kg 削減
	②給湯	ヒートポンプ給湯器への買い替え	8%	276 kg 削減
	④照明等	LED照明(10個)の導入	3%	110 kg 削減
	④照明等	テレビ32型の買い替え	1%	47 kg 削減
	④照明等	冷蔵庫(401~450ℓ)の買い替え	5%	169 kg 削減
合計			27%	979 kg 削減

家庭では、給湯や暖房のために電気やガス、灯油などの様々なエネルギーを利用しています。例えば、給湯による二酸化炭素排出量は、家庭からの排出量の13.6%を占めています。近年、お湯や熱を効率的に利用できる様々な高効率給湯器が発売されています。給湯器を新設・買い替えする際には、従来機よりエネルギー使用効率の高い機器を導入することが期待されます。

**ヒートポンプ給湯器（エコキュート）**

ヒートポンプにより、室外の空気中から熱エネルギー（大気熱）を取り出し、お湯を沸かす給湯器。安価な夜間電力を用いてお湯をつくり、貯湯タンクにためておき、必要時に使います。

「エコキュート」の仕組み



(出典) 財団法人ヒートポンプ・蓄熱センター、関西電力株式会社

**潜熱回収型給湯器（ガス給湯器：エコジョーズ、石油給湯器：エコフィール）**

従来の給湯器では利用していなかった排気（約200°C）の熱を、二次熱交換機で回収することにより効率的に利用することができる給湯器。必要時に必要な量のお湯をつくり、使用します。

**ガスエンジン給湯器（エコウィル）**

都市ガスやLPガスを燃料とするガスエンジンで発電し、その際に発生する排熱を給湯や暖房に利用する家庭用コージェネレーションシステム。発電時にお湯をつくり、貯湯タンクにためておき、必要時に使います。

「エコウィル」の仕組み



(出典) 大阪ガス

**家庭用燃料電池コージェネレーションシステム（エネファーム）**

都市ガスやLPガスから水素を取り出し、空気中の酸素と反応させることで発電し、その際に発生する廃熱を給湯や暖房に利用する家庭用コージェネレーションシステム。発電時にお湯をつくり、貯湯タンクにためておき、必要時に使います。

### 3.3 産業のグリーン化をすすめます

事業活動においては、事業者自らが環境配慮の取組を進めることに加え、「環境」の視点を組み込んだ製品やサービスを展開していくことが必要となります。そうした中、温室効果ガス排出抑制に向けて、国においては、国内クレジット制度などの支援的取組や省エネルギー法の改正など規制的な取組を実施しています。また、兵庫県においては、条例に基づき、大規模な事業所について排出抑制計画の策定や措置結果の報告を義務づけるとともに、大規模事業者が中小事業者に技術・資金等を支援し、削減した排出量を大規模事業者に移転する「CO<sub>2</sub>削減協力事業」を推進しています。

尼崎市では、次のような施策を実施することにより、産業のグリーン化をすすめます。

#### (1) 環境に配慮した事業活動の促進

環境マネジメントシステム等の環境配慮システムの導入支援や環境配慮事業者の優遇など、事業者の自主的な環境活動を促します。

省エネ診断などにより、エネルギー性能の高い設備の導入を促す仕組みづくりを検討していきます。また、ものづくりのまちとしての特性を活かし、市内で製造される環境に配慮した優れた製品を発掘し、評価するとともに、内外に広く示すことで環境産業の支援を図っていきます。

#### 【主な取組実績】

##### ◇契約締結における環境配慮事業者の優遇（2003年度～）

ISO14001の認証取得業者の優遇措置

##### ◇環境保全協定の推進（1969年度～）

地理的・社会的状況に応じたきめ細かい公害防止対策を進めるため主要工場と協定を締結  
(実績) 2009.4.1 第5次協定 36社37工場

##### ◇エコオフィスコンテストの実施（2009年度～）

事業所の温暖化対策の取組を表彰

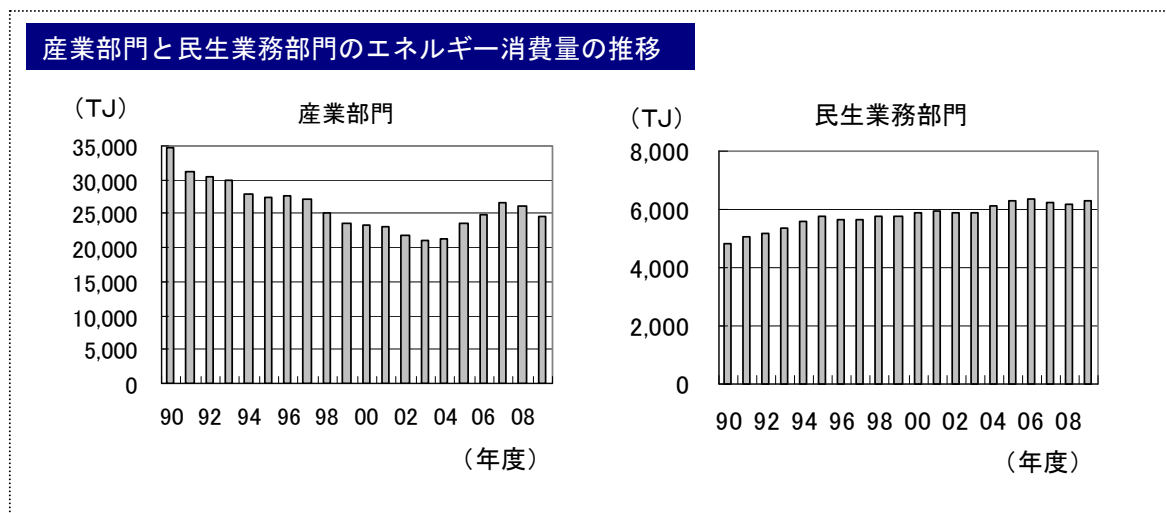
(応募実績) 2009年度：16件、2010年度：13件

##### ◇環境保全資金の融資あっせん（1970年度～）

市が資金の一部を金融機関に預託（信用補完による低利融資を実現）

(融資実績) 2007～2009年度：実績なし

#### 【関連データ】

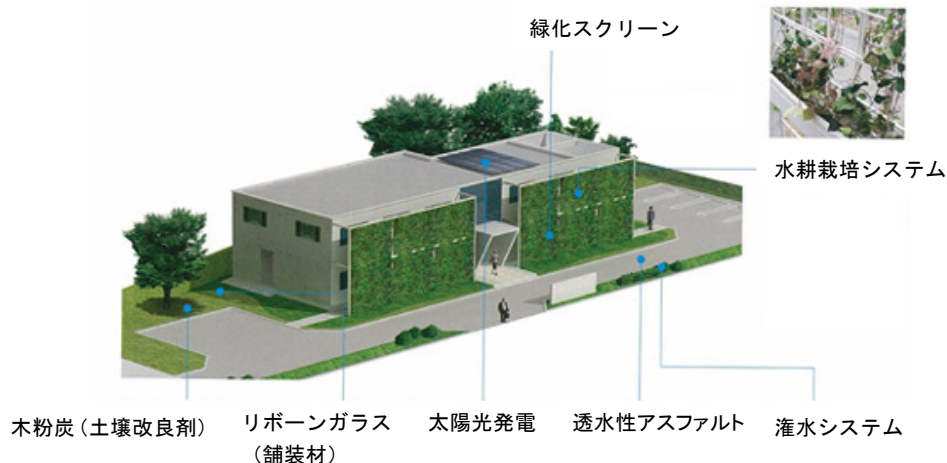


## 大阪大学大学院工学研究科附属

### サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センター

サステナビリティ・デザイン・オンサイト研究センターは、大阪大学大学院工学研究科附属施設として、2007年10月に尼崎臨海地区に設立された大阪湾ベイエリアをはじめとする都市圏域の環境再生を担う拠点です。住まい・まちづくりやバイオ・生命領域などサステナビリティ・サイエンスに関する研究が展開されており、今後活発な情報発信が期待されています。

同施設では、太陽光発電や緑化スクリーンなど環境に配慮した様々な設備が導入されています。



（出典）大阪大学大学院工学研究科

## 「ECO未来都市・尼崎」宣言

市域の経済団体※は、各主体が連携し、創造的な産業活動を通じて、未来志向のまちを目指していくことに合意し、行政とともに「ECO未来都市・尼崎」宣言を行いました（2010年11月）。今後は、「ECO未来都市」を目指し、産業活動のあらゆる場面で先駆的な環境・エネルギー技術の活用積極的に取り組んでいくこととしています。

※経済団体

尼崎商工会議所、尼崎経営者協会、協同組合  
尼崎工業会、財団法人尼崎地域・産業活性化  
機構、尼崎信用金庫

### 「ECO未来都市・尼崎」宣言 ～環境の生きづまちは美しい～

尼崎市は、阪神工業地帯の中核を担う工業都市として、我が国の産業の発展において重要な役割を果たしてきた。また、その過程での様々な経験を活かし、近年では、全国でも有数の環境先進都市としての地位を確保している。

今こそ、我々、尼崎の産業界は「ECO未来都市」を目指し、産業活動のあらゆる場面で、先駆的な環境・エネルギー技術を活用、導入するなど、尼崎発の独創的な新しいものづくりのスタイルを創出し、ものづくり産業の活性化を図っていくべきと考える。

そこで、尼崎の産業界は各団体が連携し、尼崎市民とともに、持続的な成長・発展が可能な“環境の生きづまちは美しい”の実現を図ることに合意し、以下の2つの方向性に基づき、創造的な産業活動に積極的に取り組むことを宣言する。

「産業と環境が共生するエコライフスタイル」の実践

「人、まち、企業が生きづく都市景観」の創造

## 事業所での環境配慮事例



太陽光発電（ソーラーアーケード）



太陽光＋風力発電外灯の採用



外壁触媒塗装の採用



天然ガス車による輸送



雨水再利用



緑化駐車場



木チップ舗装



風力発電設備

(出典) パナソニックプラズマディスプレイ株式会社（2009年度エコオフィスコンテスト入賞事例）  
GLプロパティーズ株式会社

## 環境コラム

### エコプロダクツ

エコプロダクツとは、環境配慮型商品の総称で、素材や設計、生産、使用時、使用後の廃棄など、各過程での環境負荷を少なくした製品やサービスのことをいいます。

エコプロダクツが出始めた当時は従来商品より割高になることも多くありましたが、近年、種類も増え、価格も安定してきています。



## (2) 公共施設での率先した環境配慮の推進

市民や事業者における環境配慮を促進するため、市が率先して、事務事業から排出される温室効果ガスの削減に取り組みます。そのため、尼崎市環境マネジメントシステムを運用し、街路灯のLED化等省エネ設備をモデル的に導入するなど、省エネルギー・省資源のエコオフィスづくり、環境配慮契約の推進等に積極的に取り組みます。

また、公共施設については、長寿命化を図り既存ストックを有効活用すると同時に、建替えに際しては、建物自体のライフサイクルを見据えた環境配慮を行います。

### 【主な取組実績】

#### ◇尼崎市環境マネジメントシステムの運用（ISO14001含む）（2000年度～）

市全般の環境関連施策のマネジメントに重きを置いた市独自の環境マネジメントシステム

#### ◇公共事業における環境配慮（公共事業環境配慮指針の運用）（2001年度～）

#### ◇市主催イベントの環境配慮（イベント環境配慮指針の運用）（2007年度～）

#### ◇公共施設省エネ改修（2010年度～）

（改修施設）女性・勤労婦人センター、北図書館、田能資料館、総合文化センター

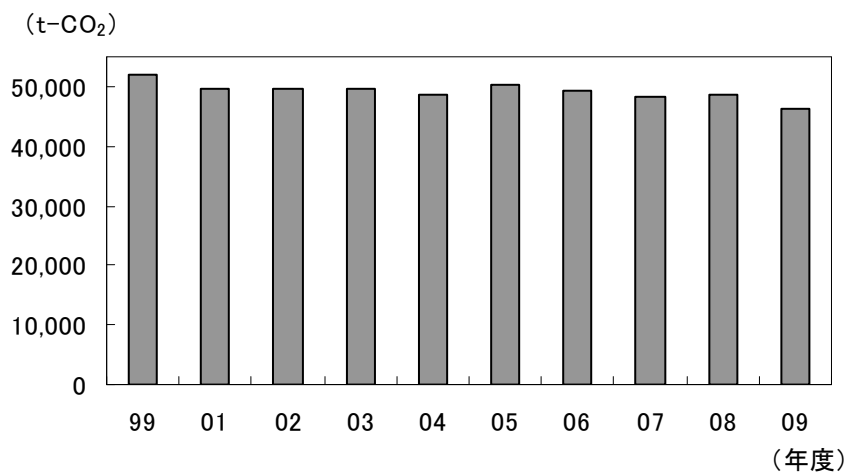
#### ◇市内街路灯の改修（照明のLED化）（2009年度～）

#### ◇市役所での率先したグリーン購入の実施（1998年度～）

### 【関連データ】

#### 本市の施設等から排出される二酸化炭素排出量の推移

本市の施設等のエネルギー使用による二酸化炭素の排出量は、公共施設の統廃合に伴う施設数の減少や省エネルギーの取組などにより、1999年度に比べて2009年度では約11%減少しています。



(注) 二酸化炭素排出係数は1999年度に固定して算出

## 尼崎双星高等学校

尼崎双星高等学校（2011年4月開校）では、太陽光発電を始め、屋上・立体緑化や透水樹使用、透水性舗装、雨水利用水槽の設置、断熱複層ガラス・熱線吸収ガラスの使用など総合的な省エネ対策が行われます。



尼崎双星高等学校完成予想図

## グリーンニューディール基金事業

本市では、2009～2010年に国・県から交付を受けた地域環境保全対策費補助金（グリーンニューディール基金）で、次のような地球温暖化対策に係る事業を実施しています。

### [実施事業]

#### ①女性・勤労婦人センター

太陽光発電設備、太陽光・風力発電付外灯の設置、照明器具を省電力タイプへ更新

#### ②街路灯

省電力タイプ（LED型）へ更新

#### ③北図書館

屋上面の断熱性能を向上させる改修、照明器具を省電力タイプへ更新

#### ④田能資料館

空調設備及び照明器具を省電力タイプへ更新



太陽光・風力発電付外灯



太陽光発電設備



LED灯

### 3.4 快適で住みやすい低炭素型まちづくりをすすめます

自動車の使用は、大量の化石燃料を消費することから、自転車や公共交通の利用を促進し、過度に自動車に依存しない社会・交通体系、温室効果ガス排出量が少ない車両への転換が求められています。

また、本市は市域のほぼ全域が市街化されているため、ヒートアイランド現象が顕著であり、その緩和を図り、環境の質を確保することは地球温暖化対策としても重要な課題です。良好な水環境やみどりの存在は、地球温暖化対策としての効果（吸収源やバイオマスエネルギーの活用等）も期待されます。

#### (1) 徒歩や自転車、公共交通で移動しやすいまちづくりの推進

本市は、平坦な地形で自転車や徒歩での移動に適しているとともに、鉄道やバスなどの公共交通機関が整備されています。さらに、住居や商業、公共施設等の都市機能が集積しているコンパクトなまちです。公共交通機関に関するきめ細やかな情報提供や、家庭や職場等における参加型の取組を通して、自動車から公共交通や徒歩・自転車利用への自発的な行動変化を促します。また、公共交通機関の乗り継ぎ時などの利便性の向上を図るとともに、運行等に関する情報提供を行っていきます。

徒歩や自転車で移動しやすいまちづくりを推進するため、歩行環境の整備を進めるとともに、自転車の利用を進める施策を検討します。

#### 【主な取組実績】

##### ◇ノーマイカーデー（毎月20日）運動の推進（1990年度～）

事業者への協力要請、市報への掲載、市内主要駅・小売店舗・自動車教習所及び市バス等での啓発ポスター掲示、他

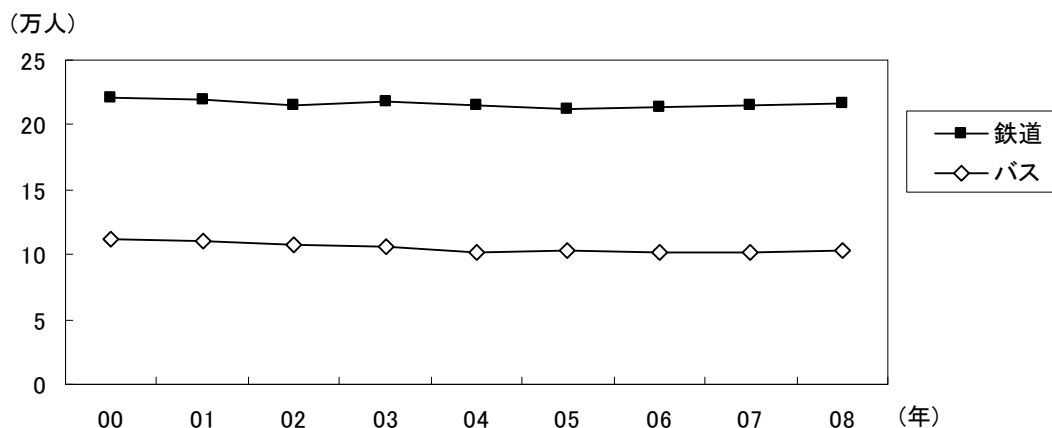
##### ◇バス利用促進に向けた取組（2008年度～）

転入者向けバスマップの配布、ネットによるバス運行情報配信サービス

#### 【関連データ】

##### 鉄道及びバスの乗客数（1日平均）の推移

鉄道の乗客数は増減があるもののほぼ横ばいとなっています。また、バスの乗客数は減少傾向にあったものの、ここ数年はほぼ横ばいとなっています。



(注) 鉄道：J R、阪急電鉄、阪神電気鉄道の合計値

バス：尼崎市営バス、伊丹市営バス（乗合）、阪急バス（尼崎線、園田線）、阪神バス（尼崎宝塚線、尼崎神戸線）の合計値

(出典) 「尼崎市統計書」、「伊丹市統計書」

## 環境コラム

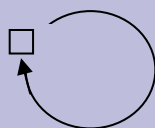
### モビリティマネジメント

モビリティマネジメントとは、ひとり一人のモビリティ（移動）が社会にも個人にも望ましい方向、例えば、過度な自動車利用から公共交通や自転車等を適切に利用する方向に自発的に変化することを期待するもので、コミュニケーションを中心とした交通施策のことをいいます。

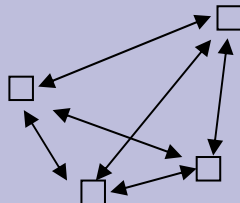
### コミュニティサイクル

コミュニティサイクルとは、従来のレンタサイクルとは異なり、専用の駐輪場の間であれば、いつでもどこでも自転車を貸りたり、返したりできるシステムのことをいいます。短時間・短距離の移動を目的とした新しい交通手段として、近年、注目を集めています。

【レンタサイクル】  
借りるところと返す  
ところが同じ



【コミュニティサイクル】  
どこで返してもよい



(出典) 富山市

### レンタサイクル

阪急園田駅前や阪急塚口駅前に  
おいて自転車の貸し出しを行って  
います。



(出典) 阪急電鉄株式会社

### えきバスびじょん。

阪神尼崎駅に設置されている「えきバス  
びじょん。」では、各社のバス運行状況が  
表示されています。



(出典) 兵庫県

## (2) エコカーとエコドライブの普及

ガソリン車の購入にあたっては低燃費車の選択を促すとともに、エコカー（天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、電気自動車等）をさらに普及していくため、公用車へ率先導入を図ります。

さらに、市内事業者に対して次世代自動車（天然ガス自動車、ハイブリッド自動車等）の導入費用の一部を助成する等の支援を行います。

また、環境に配慮した自動車の利用（エコドライブ）の推進を図ります。

### 【主な取組実績】

#### ◇低公害車（電気自動車、天然ガス車）の普及促進助成（1992年度～）

市内事業者の自家用貨物自動車リース導入に対する助成

※電気自動車への補助は1994年度で終了

（助成実績）1992～2009年度：38台（内訳：電気4台、天然ガス34台）

#### ◇天然ガストラックの普及促進（2007～2009年度）

市内事業者の営業用天然ガストラック導入に対する助成

（助成実績）2007年度：30台、2008年度：31台、2009年度：7台

#### ◇エコトラック・バス（天然ガスバス、ハイブリッドトラック・バス）の普及促進（2009年度～）

市内事業者の営業用エコトラック・バス導入に対する助成

（助成実績）2009年度：9台

#### ◇公用車への低公害車（天然ガス車・ハイブリッド車）の導入（1990年度～）

（導入実績）2007年度：4台、2008年度：4台、2009年度：6台

#### ◇市営バスなどへのアイドリングストップ装置の導入（1997年度～）

（導入実績）導入率 100%達成（2009年3月）

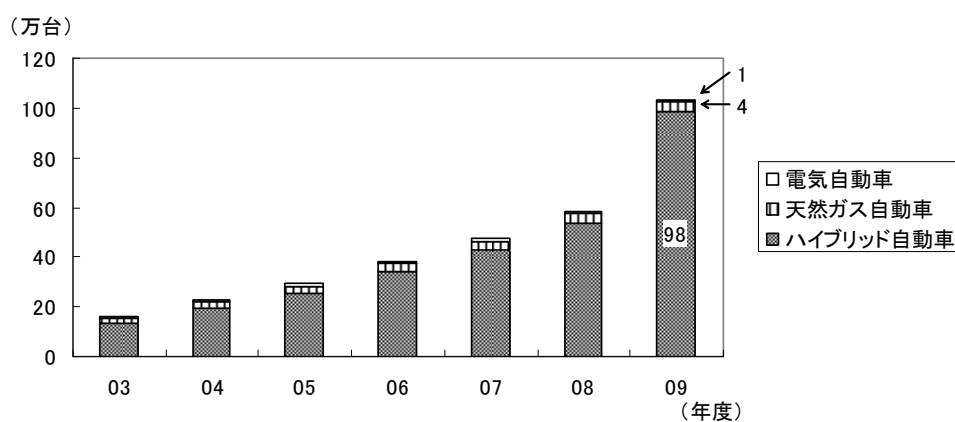
#### ◇市営バスでのエコドライブの推進（2008年度～）

乗務員研修にエコドライブ研修を導入

### 【関連データ】

#### エコカーの普及状況（全国）

わが国におけるエコカー（天然ガス自動車、ハイブリッド自動車、電気自動車）の普及台数は近年大きく増加しており、2009年度には100万台に達しました。



(注) 電気自動車とハイブリッド自動車の保有台数は、自動車検査登録情報協会データと販売実績等による推定値

(出典) 次世代自動車振興センター、日本ガス協会

### 次世代自動車

政府は、2008年7月に閣議決定された「低炭素社会づくり行動計画」において、運輸部門からの二酸化炭素削減のため、ハイブリッド自動車・電気自動車・プラグインハイブリッド自動車・燃料電池自動車・クリーンディーゼル自動車・天然ガス自動車等を「次世代自動車」と定め、2020年までに新車の2台に1台の割合で導入する目標を掲げています。

次世代自動車の種類		CO <sub>2</sub> 排出量 (g-CO <sub>2</sub> /km)
ハイブリッド自動車(HV)	複数の動力源を組み合わせ、それぞれの利点を活かして駆動することにより、低燃費と低排出を実現する自動車。現在市販されている多くは、ガソリンやディーゼル等の内燃機関(エンジン)と電気や油圧等のモーターの組み合わせ	123
プラグインハイブリッド自動車(PHV)	ハイブリッド自動車のうち、家庭用電源などの電気を車両側のバッテリーに充電することで、電気自動車としての走行割合を増加させる自動車	61
電気自動車(EV)	バッテリー(蓄電池)に蓄えた電気でモーターを回転させて走る自動車	49
燃料電池自動車(FCV)	車載の水素と空気中の酸素を反応させ、燃料電池で発電し、その電気でモーターを回転させて走る自動車	58
天然ガス自動車(CNG)	家庭に供給されている都市ガスの原料でもある天然ガスを燃料として走る自動車	148
クリーンディーゼル車(CDV)	ポスト新長期規制に適合する、PMやNO <sub>x</sub> の排出量が少ないディーゼル車	-

(注) ガソリン車のCO<sub>2</sub>排出量は193g-CO<sub>2</sub>/km、電気自動車のCO<sub>2</sub>排出量には、発電時の排出を含む。

(出典) 環境省、経済産業省、国土交通省「低公害車ガイドブック」  
 経済産業省「クリーンディーゼル普及推進方策」  
 財団法人日本自動車研究所「JHFC総合効率検討結果報告書」  
 大阪府「エコカー普及戦略」

### 急速充電設備

電気自動車の普及にあたっては、外出先における充電インフラが必要であり、公共施設や商業施設等に急速充電器が整備されつつあります。

#### 【兵庫県内急速充電器】



(淡路夢舞台：淡路市)



(フラワータウン立体駐車場：三田市)

(写真提供) 兵庫県

### (3) 緑あふれるまちづくりの推進

市内に存在する緑は、二酸化炭素の吸収源としてはその寄与率は小さいものの、緑のアメニティ機能や二酸化炭素の循環の仕組みを身近に体験する場としては有効です。そのため、公共空間や民有地の緑化等を図ることにより、みどりのネットワークを構築します。

これらの緑地等の保全・創出により、うるおいのある都市環境や景観を形成するとともに、生物多様性の確保等に努めます。

#### 【主な取組実績】

##### ◇自然と文化の森構想（1997年度～）

猪名川と藻川に囲まれた地域の構想。プラットフォームや水辺まつりを開催

##### ◇清流にこころふれあう道づくり（2005年度～）

市民・学校等と連携し、西武庫地区の水路を活かし、学習支援、イベント等を実施

##### ◇尼崎21世紀の森構想推進事業（2002年度～）

兵庫県が策定した尼崎21世紀の森構想に基づき、尼崎臨海地域において、「森と水とが共生する環境創造のまち」を目指した都市再生を市民等との協働と参画で推進

##### ◇保護樹木等の助成（1992年度～）

市が指定した保護樹木等の保護養生等の費用を助成

##### ◇街なみ街かど花づくり運動（1996年度～）

ボランティアグループ「尼崎花のまち委員会」と協働で、花苗の育成、花壇作りを実施  
(活動実績) 2009年度：グループ数144、会員数957人

##### ◇学校ビオトープの推進（1999年度～）

自然を大切にする心を育むため学校・地域との連携によるビオトープづくりを推進

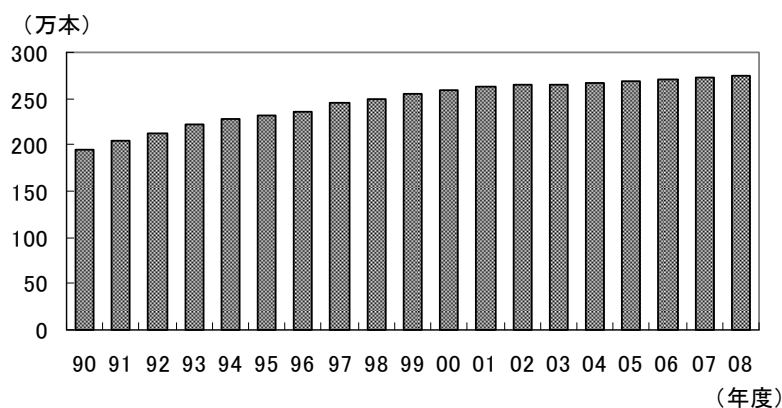
##### ◇工場緑化協定の推進（1974年度～）

敷地面積10,000㎡以上の工場において10%以上の緑地確保を市条例で義務付け  
(協定実績) 2009年度：90社・98工場、緑地面積660,454㎡

#### 【関連データ】

##### 植樹本数（累計）の推移

公園や道路等への植樹本数は年々増加し、2008年には約275万本となっています。



(出典) 「尼崎の環境」

## 尼崎21世紀の森構想

兵庫県は、「森と水と人が共生する環境創造のまち」をテーマに、尼崎臨海地域（約1,000ha）の自然をよみがえらせ、魅力と活力あふれるまちに再生していく新しいまちづくりを目指し、2002年3月に「尼崎21世紀の森構想」を策定しました。この21世紀の100年間にわたる壮大な都市再生プロジェクトを推進するため、市民、企業、行政などによる「尼崎21世紀の森づくり協議会」を設置し、緑化活動や環境に関する勉強会、「うんぱく～尼崎運河博覧会」等のイベント開催など様々な取組を進めています。

また、パイロットプロジェクトとして兵庫県が進めている「尼崎の森中央緑地」の整備では、市民等が六甲山系等から種を採取して育てた地域産の苗木を植えるなど、生物多様性をキーワードに、協働で森づくりが進められています。



尼崎の森中央緑地での森づくり



「うんぱく～尼崎運河博覧会～」



工場敷地内の花壇や壁面などの狭小スペースを利用したすき間緑化

## 小学校の敷地内にビオトープを設置

自然を大切にすることを育み、生物と関わる中で自然と環境問題について興味を持ち自ら考え行動することを目的として、小学校において、学校・地域との連携によりビオトープづくりを実施しています。



七松小学校のビオトープ  
(全国学校ビオトープコンクール2009 金賞受賞)



#### (4) 水・風・緑によるヒートアイランドの抑制

ヒートアイランド現象の緩和を図るため、雨水浸透設備や透水性舗装等の導入を促進するとともに、屋上緑化や壁面緑化など建物の緑化を進めます。

河川及び運河の上を吹き抜ける風による都市排熱の抑制効果や、クールスポットとしての河川や運河の役割をイベント等を通じて普及啓発します。

市が施行する開発事業において環境負荷の低減を図るとともに、住民主体の地区まちづくりを推進している地域において、率先した環境配慮を行う場合の支援方法について検討します。

##### 【主な取組実績】

###### ◇雨水貯水施設の設置（1995年度～）

（設置実績）学校：14箇所、施設：3箇所、公園：3箇所

###### ◇雨水浸透枡の設置

###### ◇リフレッシュポートあまがさき（1991年度～）

運河沿いを散歩できるようボードウォークやテラスなどを整備

###### ◇21世紀の尼崎運河再生プロジェクト（2007年度～）

尼崎臨海地域の貴重な財産である運河を有効に活用し、運河を核とした魅力ある地域づくりや地域活性化を図るもの

###### ◇市役所本庁舎や学校等の公共施設での壁面緑化の実施（2007年度～）

（緑化実績）2007～2008年度 本庁舎、2009年度 本庁舎・小学校9校、  
2010年度 本庁舎・保育所等41校園

###### ◇講習会の実施や種の配布など壁面緑化の普及・啓発（2008年度～）

###### ◇壁面緑化コンテストの実施（2008年度～）

#### 壁面緑化

壁面緑化は、壁面の温度を下げ、室内の空調負荷も抑えるだけでなく、植物が二酸化炭素を吸収するなどヒートアイランド対策や地球温暖化防止への効果があると注目されています。本市では、公共施設や学校等で壁面緑化を実施するとともに、講習会やコンテストを通して、市民や事業者への普及を図っています。

##### 【公共施設・学校等実施事例】

2010年度実施施設 計41校（公立の学校・保育所・幼稚園）



市役所本庁舎



七松小学校



塚口北保育所

##### 【壁面緑化コンテスト表彰事例】

応募実績 2008年度 27件、2009年度 33件、2010年度 32件



2008年度最優秀賞



2009年度優秀賞

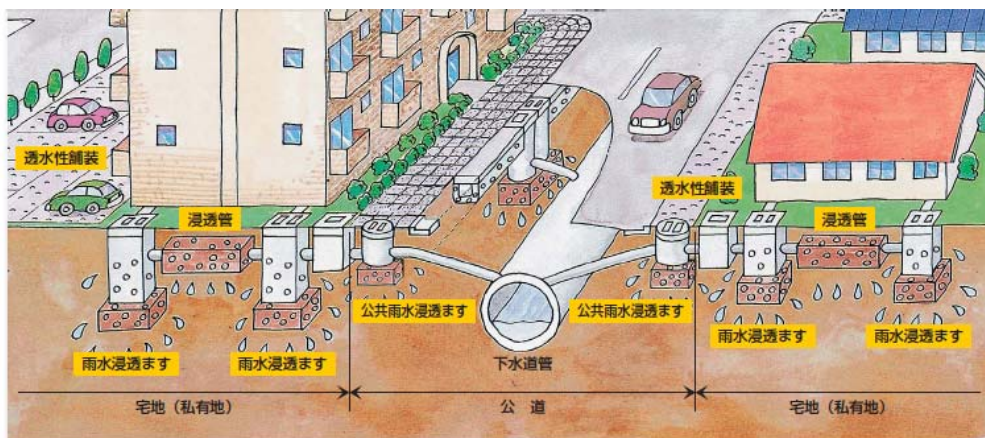


2010年度奨励賞

雨水浸透施設

人工排熱の増加や建物・舗装による地表面の被覆化により、雨水の浸透・蒸発が遮断されたことなどが原因で、ヒートアイランド現象が発生しています。

住宅に「雨水浸透ます」や「浸透管」を設置し、地中への雨水浸透を促進することや、保水性舗装により道路に雨水を貯留する機能を与えることは、下水道への負荷を抑えます。また、地表面からの蒸発散量を増加させ、気化熱による冷却作用があることから、ヒートアイランド現象を抑制する熱環境改善効果も期待されています。



(イラストの出典) 東京都下水道局「ひろめよう！雨水浸透」

### 3.5 資源を無駄なく使う循環型社会をつくります

近年はごみの減量化やリサイクルの取組が進んでいますが、依然として生産、消費、廃棄の過程では大量の二酸化炭素を排出しています。そこで、天然資源の消費が抑制されるとともに、資源循環が適正に行われ、利用できない廃棄物のみ処分される、環境への負荷をできるだけ低減する「循環型社会」を形成する必要があります。

そのため、次のような施策を実施していきます。

#### (1) ごみ減量化の推進

大量生産、大量消費、大量廃棄型の社会の在り方やライフスタイルを見直し、3R (Reduce Reuse Recycle) を推進するため、学校での出前講座の開催や地域のリーダーの育成等の地域や学校との連携による啓発活動を行います。

事業者に対し、廃棄物の適切な分別・処理の指導を行い、減量化を促進していきます。

#### 【主な取組実績】

##### ◇生ごみたい肥化容器購入費補助（1998年度～）

購入費用の1/2補助、上限1万円

（補助実績）2007年度：29件、2008年度：25件、2009年度：24件

##### ◇子どもごみマイスター制度（2007年度～）

出前教室受講後にごみ減量啓発冊子に基づく取組をした児童に対して称号を付与

##### ◇ごみ教室の開催（1994年度～）

ごみ減量リサイクル、ごみ出しマナー等の出前講座を開催

（開催実績）2007年度：1回、2008年度：7回、2009年度：6回

##### ◇さわやか指導員による啓発活動（1992年度～）

ごみ減量・リサイクル促進の地域リーダーとして委嘱、啓発、情報提供

##### ◇レジ袋削減等環境協定の推進（2008年度～）

低炭素社会及び循環型社会の構築を図るため事業者と協定を締結

##### ◇市民工房の活用（1996年度～）

パネル展示、情報発信、家具類の再利用

（来館者実績）2007年度：1,066人、2008年度：687人、2009年度：761人

##### ◇リサイクルプラザ（1993年度～）

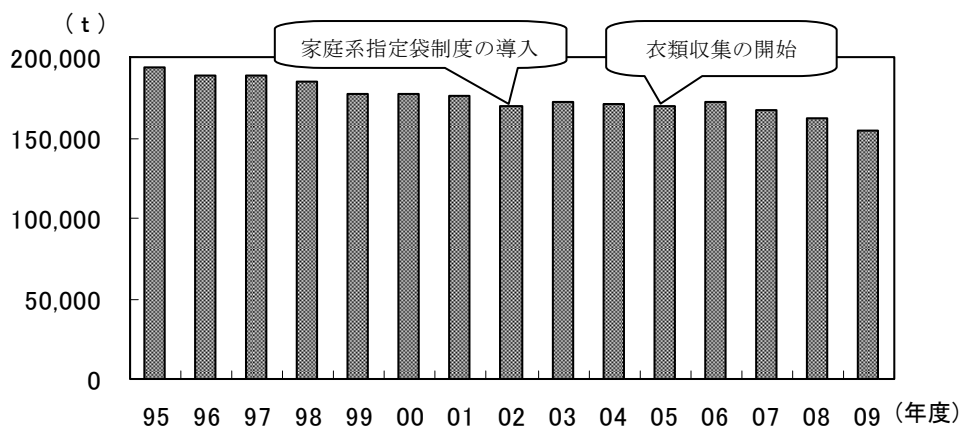
リサイクル情報バンク（不用品交換情報を登録し提供）、フリーマーケット開催支援  
（リサイクル情報バンク登録利用件数）

2007年度：306件、2008年度：315件、2009年度：367件

【関連データ】

焼却対象ごみ量の推移

ごみ減量施策の充実などにより、焼却対象ごみ量は減少傾向にあります。



「レジ袋削減等に関する環境協定」を締結

「低炭素社会」及び「循環型社会」の構築を図ることを目的に、「レジ袋削減等に関する環境協定」を事業者と締結しています。

協定締結事業者は、レジ袋削減に向けた取組及び地球温暖化防止等に向けた取組を推進し、市や市民団体は事業者の環境保全活動を支援します。

〔協定締結数〕  
 2008年度：5事業者  
 2009年度：2事業者



協定締結式

子どもごみマスター制度

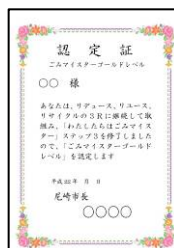
地球温暖化対策及びごみ減量・リサイクル推進の一環として、小学校でごみ出前教室(マイスターズクール)を実施し、受講後に家庭でごみ減量啓発冊子に基づく取組をした児童に対し「ごみマスター」の称号を付与する制度を実施しています。称号は取組回数により3段階に分かれています。

また、同一学年の半数以上の児童が、ごみマスターゴールドレベルの称号を獲得した学校に対し、「ごみマスター推進校」の称号を付与しています。

〔参加実績〕  
 2007年度： 954人  
 2008年度：1,093人  
 2009年度：1,604人



マイスターズクール



取組	称号の種類
1段階	ブロンズレベル
2段階	シルバーレベル
3段階	ゴールドレベル

## (2) 再利用・資源化の推進

資源集団回収運動など、これまで実施してきた市民・事業者がごみの再利用・資源化に取り組むよう誘導するしくみを更に充実させることにより、廃棄物の資源化を進めます。

廃棄物処理の各段階において、二酸化炭素の排出を考慮し処理を進めるとともに、廃棄物を燃やす際に発生する余熱を有効に活用します。

### 【主な取組実績】

#### ◇紙資源・衣類の資源化を推進（1996年度～）

（回収実績） 古紙回収 2007年度：10,864t、2008年度：9,247t、2009年度：8,226t

衣類回収 2007年度：392t、2008年度：344t、2009年度：362t

#### ◇「エコあま君」紙資源リサイクルシステムの推進（2002年度～）

市内で回収された古紙をリサイクルしてトイレットペーパーとして再利用するシステム

#### ◇資源集団回収運動奨励金の交付（1991年度～）

（回収実績）2007年度：11,288t、2008年度：10,235t、2009年度：9,654t

#### ◇イベント等におけるリサイクルの推進

市民が集う各種事業におけるごみ分別回収の徹底

#### ◇携帯電話リサイクル（2010年度～）

イベントにおける携帯電話回収キャンペーンの実施

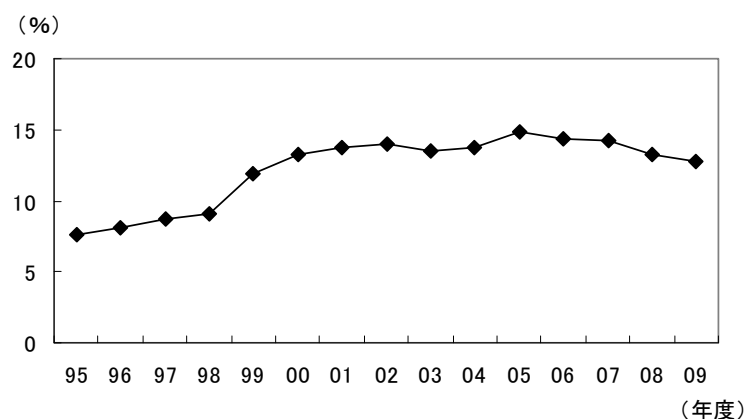
#### ◇廃棄物発電の導入（1990年度～）

家庭から出された燃やすごみ等を焼却した際に発生する余熱を利用した発電

### 【関連データ】

#### リサイクル率の推移

再利用・資源化施策の充実などにより、リサイクル率は上昇傾向にあります。



（注）リサイクル率：資源化量をごみの総排出量（溶融処理物除く）で除したもの

## 「エコあま君」紙資源リサイクルシステム

「エコあま君」紙資源リサイクルシステムは、尼崎市内の店舗や事業所から回収された古紙をリサイクルして古紙100%のトイレトーパーとして再生利用する自己完結した循環型のリサイクルシステムです。

事業の運営は「NPO法人あまがさきエコクラブ」が行っています。

### [古紙回収量]

2007年度：265 t、2008年度：286 t、2009年度：298 t



トイレトーパーには、人気アニメ「忍たま乱太郎」で知られる同市在住の漫画家・尼子騒兵衛さんがデザインしたキャラクター「エコあま君」が描かれています。

© 尼子騒兵衛 & 尼崎 J C & NPOあまがさきエコクラブ

## ごみ発電事業（クリーンセンター第1工場及び第2工場）

クリーンセンター第1工場及び第2工場では、家庭から出された燃やすごみ等を焼却した際に発生する余熱を利用した発電を実施しています。

[発電実績] 6,834万kwh(21年度)

※一般家庭が1年間に使用する電力の  
約14,000世帯分に相当  
(4,923kwh/世帯・尼崎市・2009年)



クリーンセンター第2工場

## 参考

### 取組内容の一覧

施策体系に基づく取組内容については以下のとおりです。

No	対策	施策	取組内容
1	自然エネルギーの利用をふやします	家庭や事業所での自然エネルギーの利用促進	自然エネルギーの普及啓発
			グリーン電力証書の普及に資する取組の検討
		公共施設への自然エネルギーの率先導入	自然エネルギー導入促進
			太陽光発電設備・太陽熱温水器の導入
			グリーン電力証書の率先購入
2	市民のライフスタイルの変革をすすめます	楽しみながらできるエコライフの普及	地球温暖化防止に係るイベントの開催
			市民や企業と協働した環境フェスタの開催
			イベントにおける環境配慮の徹底
			市報やパンフレット、ホームページ等での情報提供
			エコチャレンジあまがさきの推進
	環境と共生した住まい・省エネ製品等の普及	市報やパンフレット、ホームページ等での情報提供	
		住宅性能表示制度の活用	
		長期優良住宅の普及	
		住宅関連情報の発信	
	ともに学び、暮らしに活かす環境学習の促進	環境学習実施の支援	
		ルーム・エコクラブ	
		学校向け環境学習支援冊子の配布	
		学校版ISOの取組の検討	
		あまがさき環境オープンカレッジ	
3	産業のグリーン化をすすめます	環境に配慮した事業活動の促進	環境マネジメントシステムの導入支援
			契約締結における環境配慮事業者の優遇
			環境保全資金の斡旋
			環境保全協定の推進
			建築物環境性能評価制度(CASBEE)の活用
			エコプロダクツの発掘・発信
			尼崎エコカンパニーネットワークの創設
			中小企業におけるエコ活動への支援
	公共施設での率先した環境配慮の推進	市役所から排出される温室効果ガスの削減	
		公共施設における省エネ改修の推進	
		公共事業における環境配慮の推進	
		街路・公園灯の高効率照明への取り替えの推進	
		環境配慮契約、グリーン購入の推進	
		尼崎市環境マネジメントシステムの推進	

No	対策	施策	取組内容		
4	快適で住みやすい低炭素型まちづくりをすすめます	徒歩や自転車、公共交通で移動しやすいまちづくりの推進	ノーマイカーデーの推進		
			持続可能なバス交通サービスのあり方についての検討		
			市報やホームページを通じた情報発信		
			モビリティマネジメント策の推進		
			コミュニティサイクルの検討		
			歩行環境の整備		
			自転車で移動しやすい環境の整備		
			バス運行情報配信サービス		
			えきバスマップの作成・配布		
		エコカーとエコドライブの普及	低公害車導入の支援		
			公用車への低公害車導入		
			市営バスのエコドライブの推進		
			次世代自動車導入の支援		
			ごみ収集車の天然ガス車等への転換		
		緑あふれるまちづくりの推進	自然と文化の森構想の推進		
			清流にこころふれあう道づくりの推進		
			ホテル舞うまちづくりの推進		
			尼崎21世紀の森構想の推進		
			公園の整備・維持		
			民有地における緑化の促進		
			緑化協定の推進		
			農地の保全		
			市民との協働による花のまちづくり		
			学校ビオトープの推進		
			学校の緑化		
		水・風・緑によるヒートアイランドの抑制	雨水浸透施設の設置、透水性舗装の促進		
			雨水利用の促進		
			21世紀の尼崎運河再生プロジェクトの推進		
			地区まちづくりにおける環境配慮の促進		
			民間開発事業における屋上緑化、壁面緑化の促進		
			壁面緑化の推進		
		5	資源を無駄なく使う循環型社会をつくりまします	ごみ減量化の推進	ごみ教室の開催
					子どもごみマイスター制度
					さわやか指導員による啓発活動
					生ごみのたい肥化を促進
					レジ袋削減等環境協定の推進
リサイクルプラザの開設					
市民工房の活用					
事業系ごみの減量化					
再利用・資源化の推進	資源集団回収運動の推進				
	「エコあま君」紙資源リサイクルシステムの普及促進				
	公共施設での紙資源リサイクルの推進				
	浄水発生土の有効利用				
	イベント等におけるリサイクルの促進				
	携帯電話等の家庭用小型電気機器の回収とリサイクル				
	廃棄物発電				
	行政回収による紙資源化の推進				
	店頭回収の促進				